

## 江濃境目の城

## 長比城跡

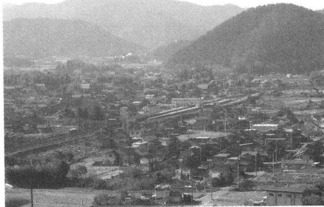
長比城跡たけくらべじょうは、伊吹山より派生する滋賀県と岐阜県にまたがる野瀬山のせやまの山頂に位置しています。米原は江南の六角氏と、江北の京極氏、さらに浅井氏の境に加えて、東側で美濃国(岐阜県)と接する国境地帯でもあったため、国境警備の山城「境目の城」さかいめが多く構えられました。長比城もその一つです。

長比城が「境目の城」として明確になっていくのが、浅井長政による織田信長への離反です。元亀元年(1570)4月、越前の朝倉義景を討伐していた織田信長に対して、信長の妹お市の方の婿である浅井長政が信長を攻撃したのです。九死に一生を得た信長は軍勢を整え、元亀元年6月浅井長政の討伐に向かいます。これに対して、浅井・朝倉軍は、美濃の国境に防御ラインを設けます。『信長公記』しんちようこうきには、「去程に、浅井備前越前衆さるほど あざい びぜんえちぜんしゅうを呼越し、たけくらへ・かりやす両所に要害ようがいを構え候」とあります。信長の侵攻に対して、越前衆の力を借りて、長比城・苅安城かりやすじょう(上平寺城)を改修したのです。しかし、守備していた堀秀村・樋口直房は信長軍に内応し、両城はあっけなく落城します。

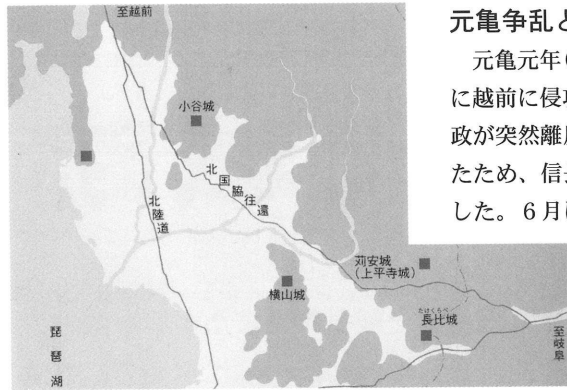
長比城の遺構は、大きく東と西の曲輪くるわから成り立っています。西側の曲輪は、東西約50m、南北最長で約30mで、ぶ厚く高い土塁が巡り、東側にくい違いの虎口こぐちを設け防御しています。東の曲輪は、西の曲輪よりひと回り大きく、東側の土塁どるいは厚く高いものです。東側と北側にくい違いの虎口を設けており、東側(美濃側)を意識した構造となっています。







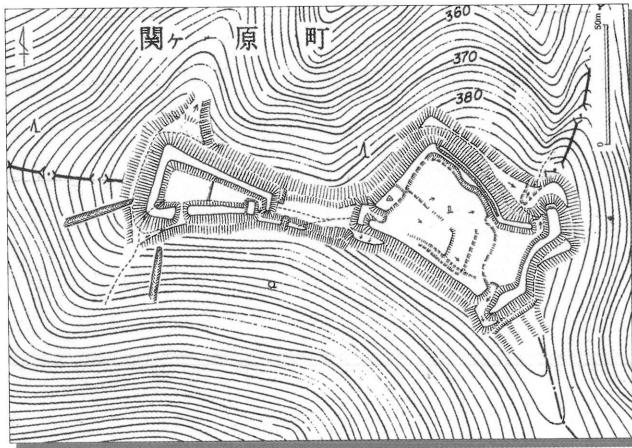
長比城跡から中山道柏原を望む



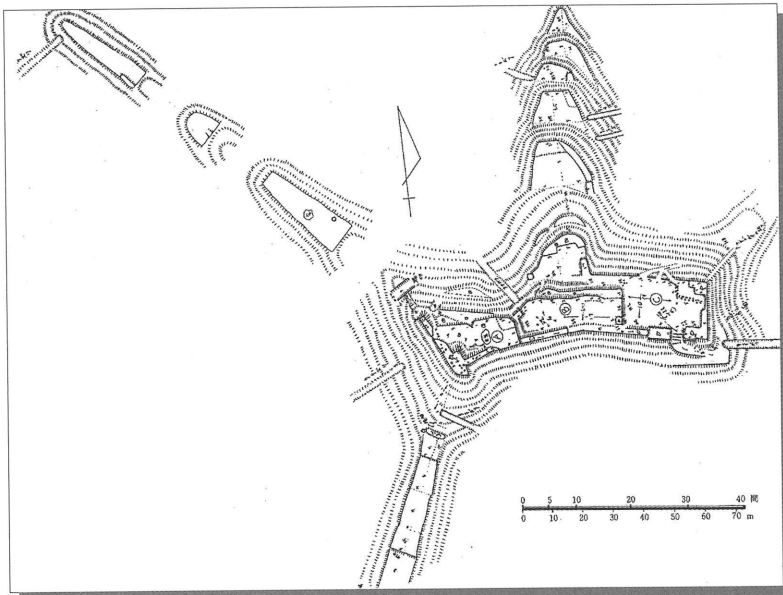
### 元龜争乱と関連城郭

元龜元年(1570)4月、織田信長は朝倉氏を討つために越前に侵攻しました。このとき、妹婿である浅井長政が突然離反し、さらに江南の六角氏までが兵を挙げたため、信長は朽木谷を抜けかろうじて京に退却しました。6月に柴田勝家らが六角氏を撃破して湖東方面を制圧すると、信長は長政を討つために岐阜城を發しました。

これに対して長政は、長比城および上平寺城(刈安城)を改修して、鎌刃城主堀秀村と樋口直房を配し、東山道と北国脇往還の封鎖をはかりました。しかし、すでに堀・樋口の両名が信長に寝返っていたために、戦うことなく近江に侵攻しました。これをきっかけに、横山城の攻防戦、姉川の戦いと続き、その3ヶ月後には、浅井・朝倉連合軍が比叡山に進出して、織田軍に対し優勢な戦いを展開します。「元龜争乱」といわれる一連の戦いは、3年もの長期間繰り広げられました。



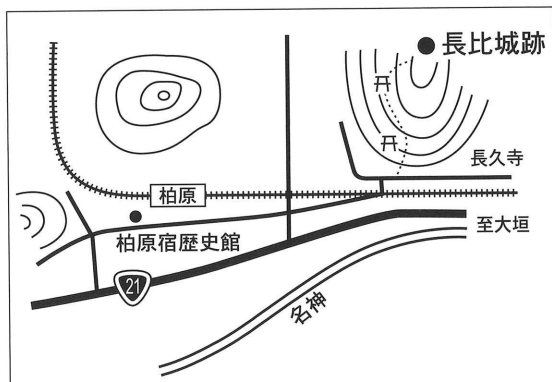
長比城縄張図



八講師城縄張図

### 八講師城跡

『改訂近江國坂田郡志』に京極氏の家臣多賀豊後守高忠が拠り、澤田民部大輔の居城と伝えています。河内集落南東の通称八講師山の山頂約480mにあります。主郭部分は3段構造になっており、礎石の散乱や虎口の石積み、石段跡等の城郭遺構を確認することができます。主郭から南西、北西、東へ延びる各尾根上にも数段の削平地があり、柏原館(清滝)や猪の鼻城跡(河内)を望むことができます。猪の鼻城跡は、河内集落の奥、梓川が分流する背後の山上にあり、京極氏の柏原館の詰めの城とも、一族の内紛の際の隠れ城ともいわれています。



### 長比城跡

- 所在地 滋賀県米原市柏原・長久寺
- アクセス JR東海道線柏原駅下車。徒歩約70分。

### 米原市教育委員会

滋賀県米原市顔戸281-1 近江はにわ館内  
TEL.0749-52-8025 FAX.0749-52-8177

平成22年度 埋蔵文化財活用事業